

（ワルソー）獨逸軍は相變らずポーランドの無防備都市を爆撃して居るが此の二、三日來是等都市に四百個からの爆弾を投下して波瀾に莫大な損害を蒙らしてゐる、死傷者は數千人に及ぶと云ふ。

（ロンドン）獨逸軍部當局の報ずる所によれば獨逸は今次の戦争に於ては先方が使用しない事を建前として毒ガスは決して使用しないと。

（東京からの報道によると日本の朝野ではソ聯のポーランド侵害については殆んど關知せざるもの如く何等の意見をも發表してゐない日本新聞は日ソ停戦協定の成立を歓迎してゐるも日本としては既に政府より發表せる如くヨーロッパ戦争には不介入との態度を

内閣情報部九・二〇 情報第六號

香港英語放送（ダメントリー中繼）  
九月十七日

（東京都市遞信局轉取）

（ワルソー）獨逸軍は相變らずポーランドの無防備都市を爆撃して居るが此の二、三日來是等都市に四百個からの爆弾を投下して波瀾に莫大な損害を蒙らしてゐる、死傷者は數千人に及ぶと云ふ。

（ロンドン）獨逸軍部當局の報ずる所によれば獨逸は今次の戦争に於ては先方が使用しない事を建前として毒ガスは決して使用しないと。

（東京からの報道によると日本の朝野ではソ聯のポーランド侵害については殆んど關知せざるもの如く何等の意見をも發表してゐない日本新聞は日ソ停戦協定の成立を歓迎してゐるも日本としては既に政府より發表せる如くヨーロッパ戦争には不介入との態度を

PS

強調してゐる。

(一)ベルリンからの報道によると日本軍の最高指揮官であつた寺内大將は目下ベルリンを訪問中でありリッペンントロツプ外相は國賓としての待遇を以て同氏を歓迎したと。

(二)ソ聯軍が突如ポーランドに進襲を開始した事に関し在ロンドン、ポーランド大使館では次の如きコンミュニケを發表した

今次ソ聯の侵略行爲は一九三二年のソ波不可侵條約の侵犯であるのみならず國際道義を無視した侵略行爲である。

(三)ソ聯のポーランド進襲について英佛の新聞は一樣に獨ソ兩國政府は既に合意の上ポーランドへ直接侵略行爲をとつたものでソ聯の參戰により更らに戦局は擴大されるものと覺悟せねばならないと流べてゐる。

右についてニューヨークの新聞もソ聯今次の行動は明に侵略的行爲であると論じてゐる。

内閣情報部九・二〇 情報第七號

成都中央通信社新聞電報放送(十七日)

(朝鮮總督府遞信局轉取)

重慶報 ソ日國境停戰を批評し「不偏」有力紙「大公報」は「日本再びロシアに屈服す」と

述べてゐる、「日本はハルハ河戦線で數ヶ月ロシアの機械化陸空軍に挑戦したが、大損害を蒙つて遂にロシアの前に屈服した」、之は日本がソヴェートの強硬態度にあつて引退つた昨年の張鼓峰事件に於ける停戰協定を想起せしめるものであると。一方も東京支那大使館の參事官だつた日本問題の權威者 WANG PENG SHENG は半官紙「掃蕩報」

への寄書でソ日不侵略條約締結の可能性に関する風説をくさしてゐる。「ソ聯側よりすればかゝる條約は不要で、その政策と調和せず、且つ違法であり、一方日本側としては國內軍事、外交的觀點よりかゝる條約の締結は不可能である」。ソ聯は以前日本との不侵略條約を希望してゐたが現在は違ふ。即ち(一)日本が對支戰で消耗してをり、獨ソ不侵略條約が成立してゐるから、ロシアにかゝる條約の必要はない。(二)ソ聯は被壓迫國民に同情してゐる、之はソ聯が支那を援助し、同時に日本國民が日本軍部に反抗して起ち上るのを援助してゐる理由である、だからソ聯は支那の抵抗を弱め、反動的な日本政府を承らへさせて、日本民衆の革命を遅らせ、まるでいつかはロシアに噛みつく瀕死の日本を救ふやうなことを